上野遺跡　現地説明会資料

令和２年11月３日（火・祝）

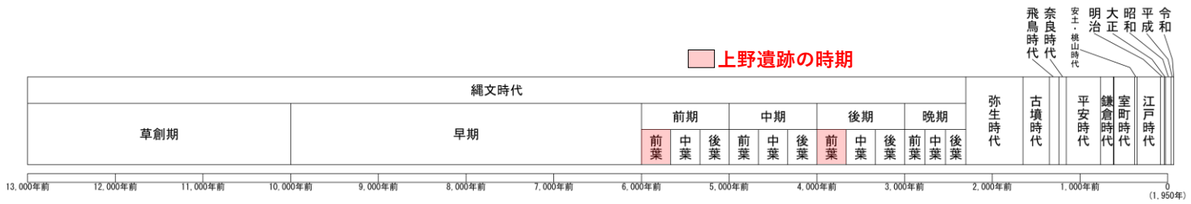
国土交通省北陸地方整備局新潟国道事務所

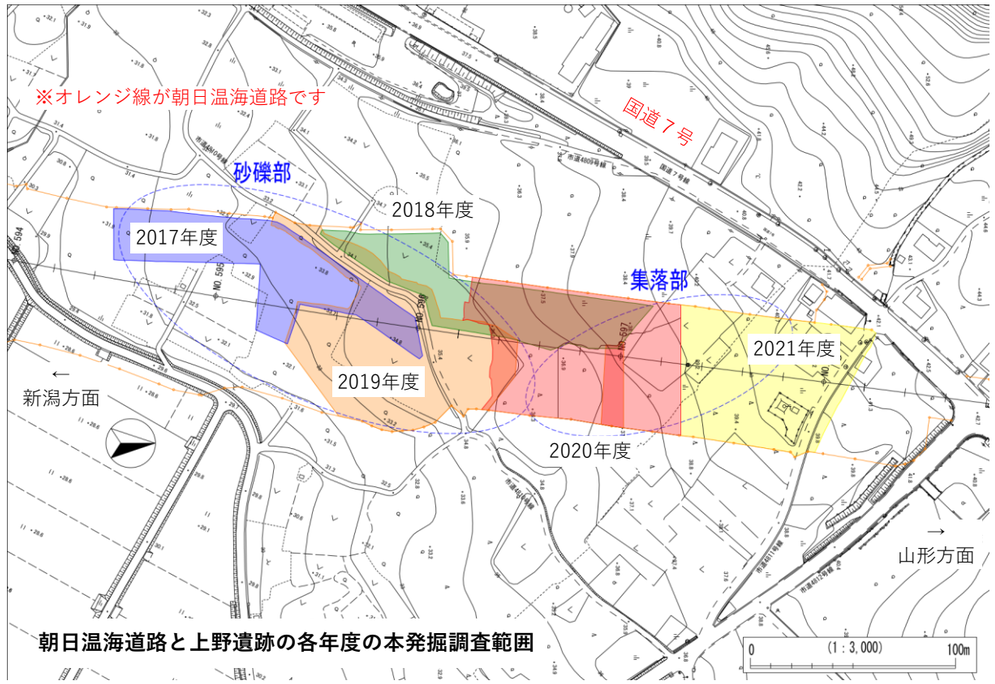
公益財団法人　新潟県埋蔵文化財調査事業団

１　調査の概要

国道７号朝日温海道路事業に伴う本発掘調査で、上野遺跡の調査は平成29（2017）年度から実施しています。今年度は４回目の調査で、約 4,985 ㎡を対象に調査を開始しました。

遺跡は高根川右岸の西から東へ緩やかに下る丘陵裾部に位置します。縄文時代後期前葉が中心の集落（ムラ）の跡で、今年度は集落の中心部とその南側の縁辺部の一部を調査しています。今年度調査範囲の現標高は、35～39ｍ程度です。





朝日温海道路と上野遺跡の各年度の本発掘調査範囲

３　遺　構

集落部の遺構は、建物に伴う石囲炉や柱穴、土坑（貯蔵用の穴・墓穴など）、埋設土器、配石遺構、集石、焼土（地床炉？）などが見つかっています。集落に近接する南北に蛇行する谷は、遺物が密集して出土することから、廃棄場として利用されていたものと思われます。また調査区南東側の低地へつながる斜面では、溝状の落ち込みがいくつか見つかっています。内側に石を置いたと見られる溝もあり、道として整備していた可能性があります。その先の低地でも土坑が見つかってますが、台地上とは違うものを貯蔵していたのかもしれません。

４　遺物　（下の写真は今年度出土した遺物です）

遺物は土器・土製品・石器・石製品などが多く出土しています。土器の年代を調べると、縄文時代の後期初頭から前葉（約4,000年前）のものが多く、大半はその時期の遺物と考えられます。また前期前葉（約5,800年前）の遺物も、2018年度調査で少量出土しています。

土器は、縄文時代後期前葉の三十稲場式と南三十稲場式が主体であり、少量の東北系統の土器もあります。深鉢・浅鉢・注口土器・台付鉢・ミニチュア土器などがあります。土製品には土偶、耳飾、土錘などがあります。少量ながらもいろいろな形があり、個人の好みで変えているのかもしれません。石器は石鏃・石匙・石錐・打製石斧・磨製石斧・板状石器・石錘・石皿・磨石類などがあり、石製品では石棒・線刻礫などが見つかっています。

５　まとめ

上野遺跡は縄文時代後期前葉が中心の集落跡で、今年度は集落の中心部とその縁辺部（砂礫部）の一部を調査しました。砂礫部は集落・廃棄場の遺物が土石流等によって多量に流されてきた範囲ですが、上野遺跡の廃絶後に堆積した可能性が高いものと考えています。また地震の痕跡が調査区の様々な場所で観察でき、この遺跡の地形を複雑なものにしています。

小型壺

突起付きミニチュア土器

土偶の体

接合した土偶の脚

溝を持つ土錘

穴を持つ土錘

打製石斧

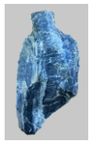
小型台付鉢

内面赤彩付きの鉢

同じ穴から出土した耳飾

石鏃

石錐


石匙

石錘
または
両頭の
ミニ石棒

石棒の頭

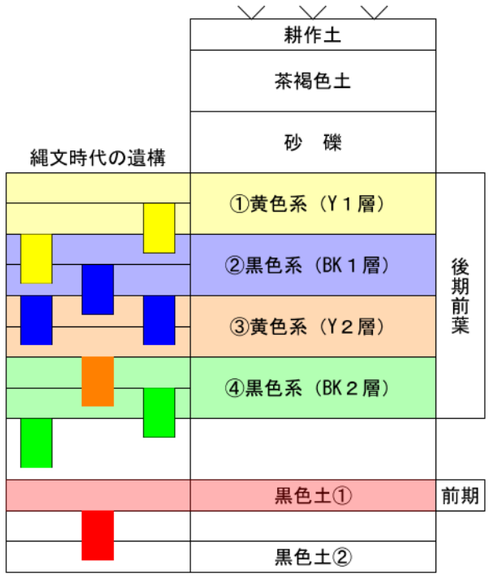
磨製石斧

２　基本土層

遺跡全体は、居住域（きょじゅういき）や廃棄場（はいきば）がある**集落部**（しゅうらくぶ）と、その南側に広がる**砂礫部**（されきぶ）に大きく分けることができます。砂礫部は集落部より一段低く、土石流や河川などで運ばれた土砂（砂礫）により現在は完全に埋没（まいぼつ）していました。この砂礫部には、集落部から流れ込んだ同時期の遺物が多く含まれています。

集落部の縄文時代後期前葉の層は、大きく４つに区分できます。黄色系（Y層）と黒色系（BK層）があり、上の方からＹ１層、ＢＫ１層、Ｙ２層、ＢＫ２層としました。各層から掘り込まれた遺構があることから、繰り返しこの地を利用していたことが分かります。またそれより下位には前期前葉の黒色土があり、遺構・遺物が少量確認されています。

上野遺跡集落部の基本土層模式図



土石流砂礫層

①黄色系（Ｙ１層：基本はシルト層）

②黒色系（ＢＫ１層：シルト層で部分的に２層）

③黄色系（Ｙ２層：シルト・砂礫の複数層）

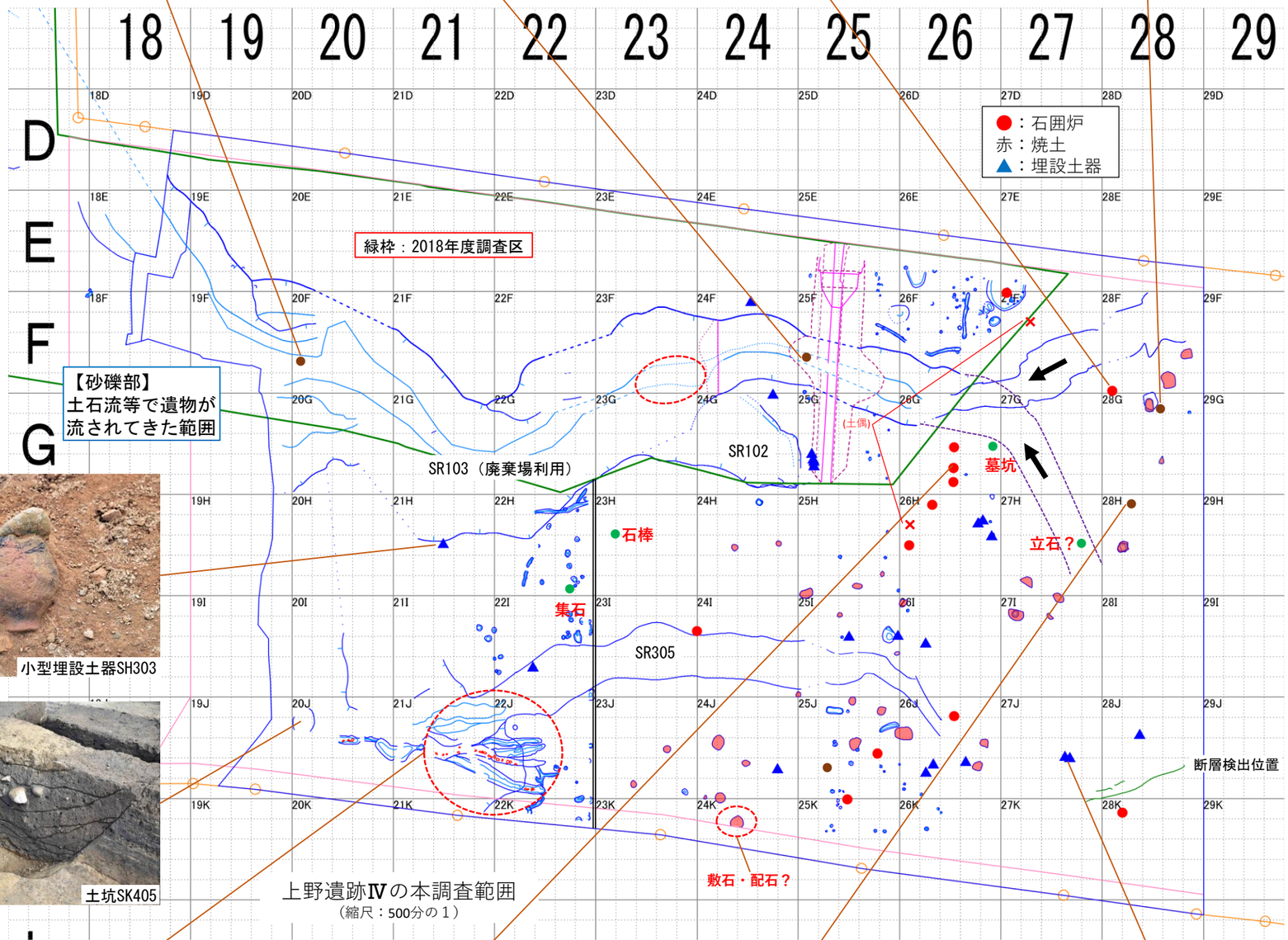
④黒色系（ＢＫ２層：シルト層）

廃棄場（SR103）

SR103の断面

石囲炉312

焼土366



小型埋設土器SH303

土坑SK405

溝SD384～387

石囲炉301

石囲炉372

埋設土器SH329（右）・343（左）